

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K13094

研究課題名（和文）移民の若者のエンパワメントと居場所づくりに関する地域参加型研究（CBPR）

研究課題名（英文）Creating Ibasho and Empowering Immigrant Youth: Using Community-Based Participatory Research

研究代表者

徳永 智子（Tokunaga, Tomoko）

筑波大学・人間系・准教授

研究者番号：60751287

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本とアメリカで移民の若者支援を行う高校やNPOと協働し、若者の居場所づくりとエンパワメントを目指した参加型アクションリサーチを実施した。特に、移民生徒が多く在籍する定時制高校において、高校・NPO・大学の三者協働による部活動の実践をつくり、当事者のエンパワメントやアドボカシーを行った。移民の若者や実践者と対等な立場で関わり、共に「知」や実践を生み出すことで、かれらの強みを引き出すストレングス・アプローチによる支援のあり方を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、移民の子ども・若者や実践者は、研究の「対象」とされることが多かった。本研究は、国内の教育学分野で取り組みの少ない参加型アクションリサーチのアプローチから、移民の若者や実践者を「パートナー」として捉え、関係性を構築し、共に「知」や実践を生み出し、状況改善や社会変革を目指した点で学術的意義がある。

研究成果は、協働した実践や若者と共にセミナーやイベントで発表し、共著で論文や著書をまとめ、広く一般向けにわかりやすい言葉で発信した。また、移民の若者をめぐる教育課題や支援のあり方などについて、教育行政関係者へのアドボカシーも行った。

研究成果の概要（英文）：Using the participatory action research (PAR) approach, this study attempted to create ibasho (spaces of comfort and acceptance) and empower young people through collaboration with high schools and NPOs that support immigrant youth in Japan and the United States. Specifically, high school, NPO, and university collaborated and created a multilingual exchange club at a part-time high school in Japan to empower and advocate for immigrant youth. The project examined a strength-based approach to supporting immigrant youth through collaborating with immigrant youth and practitioners and co-creating knowledge and practices.

研究分野：教育社会学

キーワード：居場所 エンパワメント 教育支援 移民 参加型アクションリサーチ（PAR） 協働 日米比較

1. 研究開始当初の背景

グローバル化の進展とともに、世界各国で複数の国・文化・言語のはざままで育つ子ども・若者が増加している。欧米の移民研究や関連領域では、言語の障壁、学校適応の難しさ、低い教育達成、それらの背後にある制度的・構造的差別など、移民の子ども・若者が抱える教育問題が取りざたされ、原因解明をすべく多くの研究が蓄積されてきた (Suárez-Orozco, Abo-Zena & Marks 2015)。日本においても、多文化化が進むに伴い、学校適応、不就学、アイデンティティ、進路・キャリア形成など、幅広いテーマの研究がなされている。しかしながら、多くの場合、移民の子ども・若者が抱える教育課題や困難に焦点をあてており、かれらが本来もつ強みを中心に据えた研究は数少ない。近年、社会福祉をはじめとする多くの領域でストレンクス・アプローチが取り上げられ、個人やコミュニティが本来もつストレンクスや資源に着目して、それを活かす視点の重要性が指摘されている (武田 2015)。国内の移民と教育に関する研究においても、移民の子ども・若者の複数言語・文化の力や文化の橋渡しとしてのスキルなど、かれらがもつ強みに焦点をあてた研究、またストレンクスに基づいた実践が必要とされている。

ここで特に注目するのが、ストレンクス・アプローチに基づき、地域で移民の若者の教育支援を行う NPO の役割である。NPO の研究・実践の蓄積がある北米では、Community Based Organization (CBO) と呼ばれる NPO が、学校・自治体・大学など多様なアクターと協働し、子ども・若者のストレンクスを引き出す支援活動を行っている (Weis & Dimitriadis 2008)。本研究では、コミュニティのストレンクスを重視する地域参加型研究 (Community-Based Participatory Research: CBPR) のアプローチを用いて、日本とアメリカにおいて移民の若者支援を行う人々と協働し、ローカルな場の特徴を丁寧に分析し実践改善を試みることで、移民の教育支援の研究・実践の蓄積に寄与することを目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地域参加型研究 (CBPR) のアプローチを用いて、日本とアメリカで移民の若者支援を行う人々と協働し、教育支援の有り様を検討し、実践の改善を目指すとともに、今後さらに発展が望まれるストレンクス・アプローチに基づく教育支援のあり方への示唆を提供することである。

3. 研究の方法

本研究のアプローチとして、参加型アクションリサーチ (Participatory Action Research: PAR) に関連する国内外の理論・先行研究を幅広く検討し、整理・考察した。PAR とは、パウロ・フレイレをはじめとする「南の系譜」の流れから、権力をもつ人が行ってきた研究に対抗し、対象化・客体化されてきた人々を「知」を共につくる「パートナー」と認識し、民主的な「知」の産出を目指すアプローチである (Cammarota & Fine 2008)。マイノリティへのまなざしを「欠如」から「ストレンクス」に転換する可能性を持ち、本研究の目的とも合致する。

PAR の理論的検討を踏まえたうえで、日本とアメリカで PAR に取り組んだ。日本では、2018 年度・2019 年度に都立定時制高校・NPO・大学の三者協働として、部活動の枠組みを使い、高校生の居場所づくりとエンパワメントの PAR プロジェクトに取り組んだ (2015 年度からの継続プロジェクトである)。参与観察やインタビュー、ワークショップ、フォトボイスなど多様な研究手法を採用した。また、社会貢献活動と学習活動を連関させ、学習者と地域の両方のニーズに応える教育方法としてのサービス・ラーニングを大学の授業に取り入れ、大学生・大学院生と共にプロジェクトに関わった。PAR の理念をもとに、教員や NPO スタッフと対等な立場で継続的に対話し、関係性を構築し、生徒のニーズも聴きながら、共に実践の改善を試みた。2020 年度以降は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、対面での実施が困難となったため、オンラインでの PAR の可能性を探った。具体的には、オンラインプラットフォームを利用し、NPO スタッフと移民の若者と協働し、コロナ禍を生きる移民の若者の実態を考察し、エンパワメントを目指す若者参加型アクションリサーチ (Youth Participatory Action Research: YPAR) を実施した。

アメリカでは、2018 年度・2019 年度に、東海岸の都市部にある複数の NPO と大学を訪問し、インタビューや参与観察を行った。特に、移民背景の学生が多く在籍する大学では、どのように他大学や NPO と協働し、ストレンクス・アプローチに基づく支援を行っているのかについて、教職員や学生などにインタビューを実施した。

4. 研究成果

(1) 移民の若者の居場所づくりとエンパワメントの PAR プロジェクト

移民生徒が多く在籍する定時制高校において、当該生徒の中退や居場所のなさが課題となるなかで、高校・NPO・大学が協働して、多言語交流部 (ONE WORLD) を通した生徒の居場所づくりやエンパワメントを行った。活動内容は、大学の留学生との交流 (英語でのディスカッションやアクティビティの実施)、文化祭での企画や展示、アーティストによるワークショップなど

である。協働でつくる ONE WORLD は、移民の生徒が一時的でも社会のまなざしから解放され、複数言語能力や複数の文化を橋渡しするスキルなど、生徒の強みが尊重される場として機能していることが明らかとなった（Tokunaga 2021）。同調圧力が強く、同質性の高い日本の学校において、移民生徒が主体的に参画でき、居場所として認識できる空間をつくる重要性が示唆された。また、当該プロジェクトに参加した大学の留学生との考察を通して、ONE WORLD では、移民生徒のリーダーシップスキルを育成し、多様性を尊重するなど可能性が見られながらも、楽しみと学びをどう両立させるのか、共通言語をどう選択するのかなど、様々なジレンマが見られたことも明らかとなった（Tokunaga, Machado Da Silva & Fu 2022）。ONE WORLD のコアメンバーの若者たちは、高校を卒業し、ロールモデルとして後輩のメンターになったり、高校やNPOのボランティアを担うなど、地域社会の担い手としても貢献しており、居場所づくりの長期的な効果ともいえる。

当該プロジェクトに参加した移民の若者やNPOスタッフなどと協働し、コロナ禍におけるYPARプロジェクトを実施した。自粛期間中に移民の若者は健康や生活、学業、進路などで困難を抱えながらも、オンライン上にコミュニティをつくったり、コロナに関連する多言語の情報を入手したり、多くの学びや気づきを得ている姿が明らかとなった（徳永 2023）。ユースリサーチャーとしてYPARプロジェクトに参画した若者たちも、リサーチスキルを習得し、より当事者のニーズに沿った研究にするなど、プロジェクトに大きな貢献を果たし、バーチャルなYPARの方法論的可能性についても検討を深めることができた（Tokunaga et al. 2022）。

また、アメリカ東海岸で中国系移民生徒の支援を行うNPOと協働した居場所づくりのPARプロジェクトをふりかえり、当該プロジェクトによる若者へのインパクトや、NPOによるストレンクス・アプローチに基づく教育支援のあり様を検討した。当該NPOは、制度を生き抜くための教育支援と資源提供と、地域貢献と社会変革を目指すリーダーの育成という役割を担っており、生徒がもつ資源やつながりを引き出し、支援していくアプローチは、日本の実践や研究にも示唆があることを示した（Tokunaga 2019；徳永 2021）。

当該PARプロジェクトの集大成として、協働した実践者や若者と共に編著本『外国につながる若者とつくる多文化共生の未来 協働によるエンパワメントとアドボカシー』（明石書店）をまとめた。ストレンクス・アプローチや居場所づくり、地域支援ネットワークなど、本研究の重要な概念を踏まえたうえで、ONE WORLD やコロナ禍のYPARの取り組みなど、関わった方たちの「声」と共に紹介している。本書は、アドボカシー活動の一環として、学校の教員や支援者、行政関係者、当事者など、広く一般の方々に読んでいただけるよう、わかりやすい言葉で書かれている。

（２）教育における参加型アクションリサーチ（PAR）の可能性

本研究は、国内の移民と教育研究やマイノリティと教育研究の分野において、参加型アクションリサーチ（PAR）という新たなアプローチを発展することができた。先行研究では、一部のアクションリサーチを採用する研究を除いて、子ども・若者や実践者・支援者を「対象化」する研究が多いなかで、本研究ではかれらと関係性を結びながら、ローカルな「知」を尊重し、ともに「知」や実践を生み出すことを試みた。本研究では、「知」の産出を民主化する方法として、子ども・若者や実践者と共同で学会やセミナーで発表を行い、著書や論文を執筆しており、国内ではほとんど取り組みがない新たな研究の在り方を提示できた。学術界の政策・実践への貢献が求められるなかで、研究と実践を統合し、マイノリティのエンパワメントや教育現場の改善、社会変革を目指す研究としてPARの可能性を考察することができた。今後、関連領域において、子ども・若者や実践者と協働するPARの発展が求められる。

（３）今後の展望

本研究のアメリカでの調査では、移民学生を多く受け入れる大学が、NPOや他の大学などと協働し、ストレンクス・アプローチに基づく支援を実施していることが明らかになった。日本でも移民の大学へのアクセスや学業継続の保障が求められるなかで、今後はPARのアプローチを用いて、日米における移民学生の大学経験や大学の支援の実態を考察し、ストレンクスを基盤とした大学の支援体制づくりも目指したい。

<引用文献>

- Cammarota, J., & Fine, M. (Eds.). (2008). *Revolutionizing Education: Youth Participatory Action Research in Motion*. New York: Routledge.
- Suárez-Orozco, C., Abo-Zena, M. M., & Marks, A. K. (2015). *Transitions: The Development of Children of Immigrants*. New York & London: NYU Press.
- 武田丈（2015）『参加型アクションリサーチ（CBPR）の理論と実践—社会変革のための研究方法論』世界思想社。
- Weis, L., & Dimitriadis, G. (2008). Dueling banjos: Shifting Economic and Cultural Contexts in the Lives of Youth. *Teachers College Record*, 110(10), 2290-2316.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 徳永智子、角田仁、海老原周子	4. 巻 184
2. 論文標題 外国につながる若者の居場所づくりとキャリア支援 都立定時制高校における三者協働の実践	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本語教育	6. 最初と最後の頁 19～32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Sosnowski Jim, Tokunaga Tomoko, Evans Sarah A.	4. 巻 46(1)
2. 論文標題 Participatory Action Research in Education: Benefits and Tensions Across Contexts	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Annals of Anthropological Practice	6. 最初と最後の頁 19～25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/napa.12174	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Tokunaga Tomoko, Machado Da Silva Isabel, Fu Mengyuan	4. 巻 46(1)
2. 論文標題 Participatory Action Research with Immigrant Youth in Tokyo: Possibilities and Challenges of <i>Ibashi</i> Creation Project	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Annals of Anthropological Practice	6. 最初と最後の頁 40～51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/napa.12173	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Tokunaga Tomoko, Dinesh Joshi. R., Watanabe Shinya, Shah Arjun	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 Co-researching with Immigrant Youth in Tokyo during COVID-19: Possibilities of Virtual Youth Participatory Action Research	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 NEOS	6. 最初と最後の頁 20～24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Douthirt-Cohen Beth, Tokunaga Tomoko, McGuire T. Donte, Zewdie Hana	4. 巻 59(1)
2. 論文標題 Pitfalls and Possibilities of Social Justice Ally Development Models: Lessons From Borderland Theories for Building Solidarity Across Difference	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Educational Studies	6. 最初と最後の頁 14 ~ 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00131946.2022.2153682	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 徳永智子、住野満稲子	4. 巻 12
2. 論文標題 はざまにある生と教育 アメリカにおける移民女性の語りから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育学年報	6. 最初と最後の頁 157 ~ 177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 McGuire Jennifer M., Tokunaga Tomoko	4. 巻 40
2. 論文標題 Co-constructing Belonging: 'Voluntary Separation' in Deaf and Immigrant Education in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Studies	6. 最初と最後の頁 291 ~ 311
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10371397.2020.1851177	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徳永智子	4. 巻 53
2. 論文標題 「わたし」との協働的な「日本」の再想像 / 創造の試み 越境する女性たちをめぐるマルチサイテッド・エスノグラフィー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 異文化間教育	6. 最初と最後の頁 52-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tokunaga Tomoko	4. 巻 15
2. 論文標題 Co-Creating Ibasho at a Part-Time High School in Tokyo: Affirming the Lives of Immigrant Students through Extracurricular Activities	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Educational Studies in Japan: International Yearbook	6. 最初と最後の頁 27～39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Douthirt-Cohen Beth, Tokunaga Tomoko	4. 巻 15
2. 論文標題 'Is He Allowed to Have a Crush on You?' Interrupting Adulthood in Fieldwork with Youth	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Ethnography and Education	6. 最初と最後の頁 207～221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/17457823.2019.1568273	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tokunaga Tomoko	4. 巻 NA
2. 論文標題 Possibilities and Constraints of Immigrant Students in the Japanese Educational System	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Background Paper commissioned for Global Education Monitoring Report 2019, Migration, Displacement and Education: Building Bridges, not Walls	6. 最初と最後の頁 1～16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 徳永智子
2. 発表標題 コロナ禍を生きる移民の若者との協働実践 若者参加型アクションリサーチ (YPAR) を通して
3. 学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomoko Tokunaga, Joshi Ratala Dinesh Prasad
2. 発表標題 Co-researching with Immigrant Youth during COVID-19: Dilemma between Protection and Participation
3. 学会等名 日本教育社会学会第73回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomoko Tokunaga
2. 発表標題 Unpacking Collaboration in Youth Participatory Action Research during COVID-19: Reflecting on Collaborative Project with Immigrant Youth in Tokyo
3. 学会等名 Annual Conference of the American Anthropological Association 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 徳永智子
2. 発表標題 越境する女性の『日本』をめぐるマルチサイテッド・エスノグラフィー 『わたし』との協働的な再想像/創造
3. 学会等名 異文化間教育学会第41回大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Isabel Saenz, Tomoko Tokunaga
2. 発表標題 Tabunka Kyousei: Ideologies of Multiculturalism and Integration in Japanese Education
3. 学会等名 20th International Conference on Diversity in Organizations, Communities & Nations (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomoko Tokunaga
2. 発表標題 Is Japan Home? Is the US Home? Diverging Paths of Asian Immigrant Girls in Japan and the US
3. 学会等名 AAS (Association for Asian Studies)-in-Asia 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徳永智子
2. 発表標題 アメリカにおける中国系移民生徒の居場所づくりに関する参加型アクションリサーチ
3. 学会等名 日本教育社会学会第72回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomoko Tokunaga, Misako Nukaga
2. 発表標題 Diverging Academic Trajectories of Immigrant Students in Japan: The Possibilities of In-and-Out of School Policies and Practices
3. 学会等名 The Annual Conference of the Comparative and International Education Society 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Tokunaga, Yuki Imoto
2. 発表標題 (Un)Learning Forms of Knowledge and Positionings: Dialogic Autoethnography of Transnational Female Academics in Japan
3. 学会等名 Annual Conference of the American Anthropological Association 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 徳永智子
2. 発表標題 定時制高校における参加型アクションリサーチの可能性と課題 居場所づくりの協働実践をふりかえる
3. 学会等名 異文化間教育学会第40回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 徳永智子
2. 発表標題 越境する若者の「日本」をめぐるマルチサイテッド・エスノグラフィー 日本とアメリカを生きる「アジア系」移民女性
3. 学会等名 異文化間教育学会2020年度特定課題研究・第1回公開研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 徳永智子
2. 発表標題 アメリカにおける中国系移民の若者と居場所づくり 「居場所プロジェクト」をふりかえる
3. 学会等名 異文化間教育学会第39回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoko Tokunaga
2. 発表標題 Exploration of Collaborative Ibasho Creation Project with Youth in Tokyo: Using Participatory Action Research
3. 学会等名 Annual Conference of the American Anthropological Association 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 徳永智子、角田仁、海老原周子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 外国につながる若者とつくる多文化共生の未来 協働によるエンパワメントとアドボカシー	

1. 著者名 相澤 真一、伊佐 夏実、内田 良、徳永 智子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 278
3. 書名 これからの教育社会学	

1. 著者名 徳永智子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 288
3. 書名 「居場所」・「ハイブリディティ」異文化間教育学会編『異文化間教育事典』	

1. 著者名 徳永智子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 256
3. 書名 「アメリカのNPOによる中国系移民の教育支援 ストレngths・アプローチから」恒吉僚子・額賀美紗子編『新グローバル時代に挑む日本の教育 多文化社会を考える比較教育学の視座』	

1. 著者名 徳永智子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 237
3. 書名 「わたし から始める教育開発 日米における移民の子どものエスノグラフィー」 荻巣崇世・橋本憲幸・川口純編 『国際教育開発への挑戦 これからの教育・社会・理論』	

1. 著者名 徳永智子、高橋史子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 304
3. 書名 「マイノリティ」北村友人・佐藤真久・佐藤学（編）『SDGs時代の教育：すべての人に質の高い学びの機会を』	

1. 著者名 徳永智子、住野満稲子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 249
3. 書名 「ノンフォーマルな教育と居場所 夜間中学校・NPO・エスニック組織・メディア」額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子編 『移民から教育を考える 子どもたちをとりまくグローバル時代の課題』	

1. 著者名 Tomoko Tokunaga	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 214
3. 書名 “ To Find a Better Way to Live a Life in the World ” : An Autoethnographic Exploration of Ibasho Project with Chinese Immigrant Youth in the United States. In Mahmoudi, H. and Mintz, S. (Eds). Children and Globalization: Multidisciplinary Perspectives	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	Frederick Community College			
米国	University of Illinois Urbana-Champaign	University of Maryland	University of North Texas	他2機関